

「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」の契約締結について ～SDGsの目標達成に向けた当社の事業活動を第三者が評価～

横浜環境保全株式会社（社長 高橋義和）は、株式会社静岡銀行（頭取 柴田 久）との間で、「ポジティブ・インパクト・ファイナンス(※)」の契約を締結しましたので、お知らせします。

※企業活動が環境・社会・経済のいずれかの側面において与えるインパクトを包括的に分析し、特定されたポジティブインパクトの向上とネガティブインパクトの低減に向けた取り組みを支援する融資。企業によるSDGs達成への貢献度合いを評価指標とし、その過程を情報開示する。

- 当社は、企業理念「未来そして子供たちのために“環境保全事業”を通して地域社会に最も貢献する」のもと、一般廃棄物および産業廃棄物の収集・運搬を行うとともに、プラスチックや金属くずのリサイクルや、生ゴミを自然発酵させて堆肥化・固形燃料化する「環境保全トータルシステム」を強みとし、環境保全に関わるさまざまな事業に取り組んでいます。
- 当社の取り組みは、国連環境計画金融イニシアティブが提唱した「ポジティブ・インパクト金融原則」およびポジティブインパクトファイナンスタスクフォースが提唱した「インパクトファイナンスの基本的考え方」に基づき、一般財団法人静岡経済研究所が(株)日本格付研究所の協力を得て評価しています。
- SDGsの目標達成に資するインパクトについて、以下の通りKPIを設定しています（詳細は「評価書」をご参照ください）。これらの取り組みの進捗・成果は、当社ホームページにて開示します。

特定されたインパクト	KPI（指標と目標）	関連するSDGs
<社会面> 健康と衛生 廃棄物 食料	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年までに、廃棄物の取扱量を現状の8万2千トンから、9万トンまで増加させる ・フードループの取組みを社外へ広くPRし、野菜生産者や飲食店などの参画事業者を増加させる 	   
<経済面> 経済の取れん 雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・同業他社でのデザインパッカー車の普及に貢献する ・新卒採用を強化し、毎年採用を実現させ、従業員の福利厚生の充実に努める 	
<環境面> 資源効率・ 資源安全確保 気候変動 廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・「ハマのありが堆肥」、「ハマのありが堆燃」の合計製造量30トンを維持する ・2030年までに、CO2排出量を2013年度の3,373トンから▲15%削減し、2,867トンまで低減させる ・地域の住民や小中学生に対する自社工場見学を積極的に受け入れる 	  

- 当社は本件の締結後も、行政や公的機関、支援機関、あるいは同じ思いを持つ全国の廃棄物処理業者との連携、協力を模索し、更なるSDGs達成に貢献していきます。

以上